

瑞穂町 防災ハザードマップ

Mizuho Town Disaster Hazard Map

瑞穂町防災地図 미즈호 정 방재 하자드 맵

Mapa de prevención de desastres de ciudad de Mizuho

瑞穂町役場 〒190-1292 東京都西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎 2335
TEL：042-557-0501 令和 4 年 8 月発行

このマップは、瑞穂町で発生する洪水や地震による危険がある範囲と、危険が迫った時に避難する「指定緊急避難場所」などを示したもので、町民の皆様への避難に役立つように作成したものです。これらのマップを参考に、日頃からのように避難すればいかなどを家族で話し合い、いざという時に危険を回避できるようにしましょう。マップは、貼り付けておいたり、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

● 洪水について

洪水には、外水氾濫と内水氾濫があります。

外水氾濫

大雨によって河川の水位が高くなると、川の水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。これを外水氾濫といいます。

この防災ハザードマップに示した浸水予想区域は、外水氾濫を想定したものです。

内水氾濫

短時間で強い雨などによって雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなって、雨水の排水ができなくなることから発生する浸水を内水氾濫といいます。

なお、この防災ハザードマップには、過去の風水害被害実績として、内水氾濫した箇所が示されています。

内水氾濫の発生

非常に激しい雨が降ると・・・

雨水が下水道や道路側溝などで排水できずに溜まります。

更に雨が降り続けると、大きな河川の水位が上昇し、中小河川の排水が難しくなりあふれ出す恐れがあります。

外水氾濫の発生

堤防が決壊すると、大きな被害が発生します。

● 避難所等の種類

瑞穂町には、下記3種類の避難所(場所)があります。

●指定緊急避難場所
居住者等が災害から命を守るために緊急的に避難する施設又は場所

●指定避難所
災害の危険性があり避難した住民等、災害の危険性が高くなるまでに必要の間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設

●広域避難場所等
地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険となった場合に避難する場所

● 指定避難所でのマナー

指定避難所は、大勢の方が利用します。災害の状況により、数日間避難所で生活をしなければならないこともあります。マナー、ルールを守り、お互いに助け合って生活するよう心掛けましょう。

指定緊急避難場所

指定避難所内では、係員、自主防災組織などの指示に従ってください。

指定避難所

災害の状況に関する情報が、ラジオ、テレビ、町からのファクシミリなどにより伝達されますので、落ちついて情報を待ってください。

指定避難所でのマナー

指定避難所では、必ず受付をしてください。また、外出する場合は、必ず係員に伝えるようにしてください。

広域避難場所等

地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険となった場合に避難する場所

● 避難行動要支援者への協力

災害発生時に自分の力で避難することが困難で、避難するためには他の方の支援が必要な方々のことを避難行動要支援者といいます。一般的に、高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児、日本語を十分理解できない外国人の方などになります。安否確認、避難施設への移動など、地域で協力し合いながら支援しましょう。

視覚障害のある方には

●誘導するときは、声をかけながら杖を持っています。腕の肘あたりに軽く触れるか、腕を貸してゆっくり歩きましょう。

聴覚障害のある方には

●手話、筆談、身振りなどで現在の状況を知らせましょう。

身体的不自由な方には

●それぞれの人に適切な誘導方法を確認し、早めの避難を心掛けてください。車椅子の場合、階段では必ず複数人で協力し、上か下かとは前向きにして、下るときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないようにしましょう。

知的障害・精神障害者の方には

●ゆっくり話しかけて、気持ちを落ち着かせ、避難所等まで一緒に行動しましょう。

高齢者の方には

●背負ったり、肘や肩から支えたりして、安全な場所まで一緒に行動しましょう。

妊産婦の方・乳幼児には

●困っていることがないかを声を掛け、避難所等まで一緒に行動しましょう。

外国の方には

●身振りなどで現在の状況を知らせ、避難所等まで一緒に行動しましょう。

● 土砂災害について

土砂災害は、土石流、土崩れ(急傾斜地の崩壊)、地すべりの3種類に分類されています。

土崩れ(急傾斜地の崩壊)

急な斜面が雨水の浸透や地震などの影響によって、急激に崩れ落ちる現象です。突然発生し、崩れる

土石流

規模によって異なりますが、時速 20 ～ 40km という速度で、破壊力がとても大きいです。

地すべり

分が崩れ落ちる表面崩壊と、深層の地盤までもが崩れ落ちる深層崩壊があります。大雨や融雪時に発生しやすく、一度に広範囲が動くため、被害が大きくなります。

スピードが速いです。崩れた土砂は、斜面の高さの 2 ～ 3 倍も離れた距離まで達することがあります。

土砂災害危険箇所として下記の2種類があります。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域

● 日頃からの準備

いつ起こるか分からない災害から身を守るため、非常持出品・備蓄品の準備、避難所の確認などを行い、いざという時に備えましょう。

● 避難所等をあらかじめ確認しておく。

洪水の時に避難する場所を「防災ハザードマップ」で確認しておきましょう。

● 避難所等まで実際に歩いてみる。

実際に避難所等まで歩いてみて、ふたの無い側溝など避難時に危険だと感じる場所を確認しておきましょう。また、避難所等までの時間を確認しておきましょう。

● 地域でいざという時のことを話し合う。

地域全体が安全に避難するために、高齢者の方や障害のある方などの避難時の配慮を、事前に話し合っておきましょう。

● 非常時に持ち出すものを準備しておく。

非常持出品を日頃から準備し、食料や乾電池などは、定期的にチェックしておきましょう。持出品は、必要最小限にしましょう。

● 二次災害を防ぐ。

屋外においてある物置や工具、ガスボンベなどが洪水時に流れると二次災害に繋がります。流れる危険のあるものは、あらかじめ固定しておきましょう。

● 防災ハザードマップは目立つ所に保管

「防災ハザードマップ」は、目立つ所に保管し、非常時に持ち出しましょう。あらかじめ、マイ・タイムラインを記入しておきましょう。

● 気象情報：大雨に関する注意報・警報

大雨による危険が迫った場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。警報の基準をはるかに超える豪雨などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合は、「特別警報」が発表されます。

大雨・洪水注意報

災害が発生するおそれがある

大雨・洪水警報

重大な災害が発生するおそれがある

大雨特別警報

警報よりもはるかに高い危険度

● 警戒レベルに関する情報

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等	洪水に関する情報	土砂災害に関する情報
5	すでに災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。	災害発生情報※1	(大雨特別警報(浸水害))	(大雨特別警報(土砂災害))
4	危険な場所から指定緊急避難場所等への上り下り避難を基本とする避難行動をとる。	避難場所(緊急)※2	洪水警報の危険度分布(非常に危険)	土砂災害警戒情報(土砂災害に関するメッシュ情報(非常に危険))
3	危険な場所から高齢者等は上り下り避難する。その他の者は上り下り避難の準備をし、自主的に避難する。	避難準備、高齢者等避難開始	洪水警報の危険度分布(警戒)	大雨警報(土砂災害)洪水災害に関するメッシュ情報(警戒)
2	避難に備え自らの避難行動を確認する。	洪水注意報	洪水警報の危険度分布(注意)	土砂災害に関するメッシュ情報(注意)
1	災害への心構えを高める。	警戒レベルの可能性早期注意情報		

● 避難情報の種類

水害や土砂災害などの自然災害が発生した場合、あるいは発生のおそれがある場合に町長から発令されるのが、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示(緊急)」です。

避難準備・高齢者等避難開始(警戒レベル3)

●避難に時間を要する人(高齢者、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から避難を開始しましょう。

●その他の人は、避難の準備を整えましょう。

避難勧告(警戒レベル4)

●速やかに危険な場所から避難所へ避難しましょう。

●外出することによって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や自宅内より安全な場所に避難しましょう。

避難指示(緊急)(警戒レベル4)

●まだ避難していない人は、危険な場所から直ちに避難しましょう。

●外出することによって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や自宅内より安全な場所に避難しましょう。

● 非常持出品チェックリスト

災害が発生した時は、すぐに避難しなければなりません。避難する場合に備えて、日頃からリュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

食料

□飲料水(1人1日3リットルを目安)
□非常食(缶詰、おひし、レトルト食品など)
□携帯食(チョコレート、キャンディーなど)
□粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)
3日分以上(できれば、1週間分の食料と飲料水を備蓄品として準備しておきましょう。

救急・安全対策用品

□常備薬(胃腸薬、かぜ薬、傷薬、消毒薬など)
□包帯、ガーゼ、ばんそうこう
□持病のある方のお薬手帳
□ヘルメット、防災ずきん
□ホイッスル

貴重品

□現金(小銭も必要)
□預貯金通帳、判子
□クレジットカード類
□健康保険証
□運転免許証など(身分証明用)

衣類など

□衣類(厚手の物と薄い物)
□下着類
□タオル、毛布
□手袋、草鞋
□寝具
□雨具

日用品など

□ポリ袋(ビニール袋)
□新聞紙
□ろうそく、ライター
□ナイフ、缶切り
□ティッシュペーパー
□ウェットティッシュ
□懐中電灯(予備電池)
□携帯ラジオ(予備電池)

携帯用品

□携帯電話(充電器・バッテリー)
□筆記用具(油性マジック)
□洗面用具
□メガネ
□マスク
□使い捨てカイロ
□紙おむつ
□生理用品

布ガムテープ

□ロープ
□地図(防災ハザードマップ)

● 我が家にあわせた備蓄を

災害時に必要になるものは、家庭の状況によって様々です。家族構成や状況に応じて必要なものを備蓄品に加えます。また、冷蔵庫の中のものも立派な備蓄品です。普段から「少し多めに」という備蓄の考えで1～3日目までは冷蔵庫の中のものを使い、4～7日目はローリングストック法で備蓄したものを活用すると、工夫しましょう。

冷蔵庫や冷凍庫の食材を活用する

ご飯や食パン、野菜などを冷凍しておけば、自然解凍により食べる事も可能です。冷凍庫の食材は、クーラーボックスや保冷剤等を利用して食料を確保しましょう。

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用する

備蓄しておく良いもの
●缶詰
●レトルト食品
●バックご飯
●フリーズドライ食品

ローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。日頃から食べ慣れたという賞味期限が長い物を意識的にストックして、月に1、2度食べる時に防災について考えるきっかけにしましょう。

①食分多めに買う。

②1食分を食べる。

③②を定期的に繰り返して備蓄を一定に保つ

● 個人や家庭、地域のニーズに応じて備蓄を工夫しましょう

地域には高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児、外国人などの要配慮者をはじめ、様々な住民がいます。地域で備蓄する場合は、多様な視点や要配慮者の地域生活者の意見を反映できるようにすることが大切です。

成人用おむつのセット

□成人用おむつ
□尿取りパッド
□おしりふき
□中身の見えないごみ袋

生理用品のセット

□生理用品
□サタリジョーズ
□清拭紙
□おりものシート
□中身の見えないごみ袋

育児用品のセット

□粉ミルク(調製粉乳)
□アレルギー対応ミルク
□乳幼児用飲料水
□ほ乳瓶(消毒剤)
□おむつ
□湯沸かし器具(乾燥機付き電熱器)
□保温湯水筒

東日本大震災では・・・

発生直後は、避難所等において、おむつや生理用品、粉ミルクなど、高齢者や女性、子育て家庭の生活必需品が不足しました。個人で備蓄するときに、地域の備蓄品について確認しておくことも大切です。

● 気象情報・避難情報等の伝達方法

次のような経路で情報が伝達されます。

気象庁(気象情報等)

テレビ・ラジオインターネット

瑞穂町災害対策本部(避難情報等)

防災行政無線・広報車
メール・ツイッター

町民の皆さん

● POTEKA

町内1か所に設置してある気象観測装置「POTEKA」で、町内の気象状況をリアルタイムで知ることができ、雨量、気温などの気象情報を入手することができます。

設置場所

●瑞穂町役場
●武蔵野防災会館
●長岡会館
●元狭山コミュニティセンター
●駒形ポンプ場
●瑞穂第五小学校
●消防団第四分団詰所

Web サイト

http://www.town.mizuho.tokyo.jp/tyosei/015/003/p001848.html

無料アプリ

Android 用
iPhone 用

● 災害時の連絡手段

各電話会社は、伝言サービスを実施しています。自身の携帯端末に合ったサービスをご利用ください。

利用方法

1211 にダイヤル
ガイダンスが流れる

録音の場合

1 録音の場合
2 再生の場合

災害用伝言板

NTTドコモ
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi

KDDI: au
http://dengon.esweb.ne.jp/

ソフトバンクワイモバイル
http://dengon.softbank.ne.jp/

災害用ブロードバンド伝言板

(web171)NTT 東日本
https://web171.jp

安否情報検索

J-anpi 安否情報をまとめて検索
https://anpi.jp

● 避難時の心得

災害が発生しても、「すぐに避難！」ではありません。まずは、我が身の安全を確保し、落ちついて正確な情報を収集し、避難行動を開始することが大切です。

● 正確な情報収集と自主的な避難を

防災行政無線・ラジオ・テレビ・インターネット・メールで最新の気象情報、河川情報、避難情報に注意してください。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

● 避難の呼び掛けに注意を

危険が迫った場合には、町や消防から避難の呼び掛けをすることがあります。呼び掛けに注意し、呼び掛けがあった場合には、速やかに避難してください。

● 動きやすい格好、2人以上での避難

避難する場合は、動きやすい格好で、また、危険に見舞われる可能性が高いため、1人での避難は避け、2人以上での避難を心掛けましょう。マンホールなどの蓋が外れて、穴が空いている場合があります。棒などで足元を確認しながら避難しましょう。

● 避難する前に火元の確認を

避難する前に、ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーも忘れずに切りましょう。

● 高齢者などの避難に協力を

高齢者や子供、障害のある方などは、早めの避難が必要です。避難が困難な方に声をかけ、近所で助け合い、地域全体での避難に努めましょう。

● 車での避難は控えて

基本は徒歩避難です。自動車での避難は、浸水によって動けなくなる可能性があり、緊急車両の通行の妨げになります。徒歩で移動することが困難な方が避難する場合には、自動車による早めの避難を検討してください。

● 履き物

長靴は中に水が入って歩けにくくなります。裸足も禁物です。履き慣れた運動靴にしましょう。

● 危険な箇所を避けましょう

道路や鉄道の下をくぐるアンダーパスは、水がたまり、通行できなくなってしまうので、十分注意してください。また、崖の近くでは土砂災害に注意してください。川や水路には近づかないようにしましょう。

● 万が一、逃げ遅れた場合には

万が一、逃げ遅れて危険が迫った場合は、近くの高い場所や住宅の2階等に逃げ、救助を待ちましょう。

● 家族には連絡メモを残しましょう

外出中の家族には「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。

● 我が家のマイ・タイムラインを作成しましょう

東京都が配布している「東京マイ・タイムライン」を使って、我が家のマイ・タイムラインを作成しましょう。「東京マイ・タイムライン」は、役場や学校で配布される他、下記ホームページでもダウンロードが可能です。
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/mytimeline/index.html>

●マイ・タイムラインとは
「マイ・タイムライン」は、台風の接近によって河川の水位が上昇する場合には、自分自身がとる標準的な防災行動を体系的にまとめるものです。我が家のマイ・タイムラインを作成して、自宅周辺のリスクについて認識してください。そして、自分自身や家族が逃げるタイミングを整理しておき、いざというときに的確な行動を取れるようにしましょう。
ポイント：避難行動を起こす必要がある場合は、風雨が強かったり、すでに浸水が始まっている場合もあります。また、夜間に避難しなければならない場合もあります。様々な状況を想像してみてください。

● 平常時の確認事項

● 防災ハザードマップを見て、自分の家の浸水想定を確認し記入してください。

浸水深

m

□「河岸侵食」の区域内にある。
□「土砂災害警戒区域」にある。
□区域からはずれている。

注意する点

●浸水深 3m 以上
●平屋で浸水深 0.5m 以上
●家屋倒壊等浸水想定区域内
●土砂災害警戒区域、特別警戒区域内

● 我が家のマイ・タイムラインの作成例

3日～5日前

警戒レベル 1

2

避難情報 ①大雨に関する気象情報

3

避難準備・高齢者等避難開始

4

避難勧告

5

避難指示(緊急)

災害発生

避難する場所
妹の家